

第510回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和2年6月3日(水)
2. 開催場所 リポートによる書面開催
3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)
 - 委員長 林 新一郎
 - 副委員長 渡辺 重久
 - 委員 加藤 恵美子
 - 委員 笹本 正治
 - 委員 佐藤 裕一
 - 委員 瀧川 浩
 - 委員 武重 正史
 - 委員 南澤 光弥○放送事業者側出席者名
 - 外山 衆司 (代表取締役社長)
 - 太田 耕司 (取締役 報道制作担当)
 - 飯塚 憲彦 (取締役 編成・業務推進・放送番組審議会担当)
 - 春原 晴久 (報道制作局長)
 - 早川 英治 (編成局長)
 - 浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)
 - 北澤 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)
 - 飛田 修一 (制作部)
 - 大日方詩織 (制作部)
 - 戸田山貴美 (制作部)

4. 議題

(1) 番組審議

『 NBS フォーカス∞信州 雪国ふれあい滞在記

～泣いた笑った NBS 新人アナウンサー～ 』

令和2年2月21日（金）夜7時00分～7時57分放送

- (2) 視聴者対応報告（令和2年3、4月分）
- (3) 番組種別報告（令和元年10月から令和2年3月まで）
- (4) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・長野県北部地震で死者も出て大変なことだったが、その復興の様子がわかり、加えて全面的かつ終始一貫して、豊かな田舎の暮らしが明るく描かれていて文句なく楽しく良い番組だった。
- ・戸田山アナウンサーは、明るく自然体で一生懸命。旅人というより住人という感じ。道陸神祭（どうろくじんまつり）で、墨顔のままインタビューに応じていたのが溶け込んでいる感じで良かった。
- ・戸田山アナのキャラにより、ドキュメントなんだが、バラエティー・エンタメの要素を組み入れることができ、とかく暗くなりがちな田舎の番組が彩のあるものとなった。
- ・戸田山アナは大騒ぎの過剰な演技もなく、自然な仕草が好感を持たれた。字幕の「取材日記」の挿入も生きていた。
- ・南雲美津子さん（みっこ母さん）は本当に素晴らしい人柄で、長野県らしい田舎でほっこりする雰囲気うまく出ていて、ついつい見てしまう、いい番組でこの企画をおおいに支えていると感じた。
- ・「たかちゃん」の地元の皆さんにそのまま溶け込む人柄や明るく爽やかな笑顔が、「みっこ母さん」の活力と相まって、退屈になりがちな寒村ロケ1時間番組に視聴者を引き付けることに成功していたと思います。

- ・水路に流されるフキノトウを走って追いかける「みっこ母さん」の姿に、雪国の「春の喜び」を思い起こさせて戴きました。
- ・「命あるものをいただく」、フキノトウを追いかけて無駄にしない場面に感動した。
- ・一日目の夕方、霧の風景・フキノトウ・美味しそうで大量の夕食、田舎の豊かさが出ていた。ただ、自然（山川）の映像はもう少しあっても良かったと思う。
- ・踊り、料理、祭り、方言、人付き合いといった田舎の要素が満載されて、番組全般に明るさとか本来の人間のよさが出ていてコロナを吹き飛ばす文句なく良い番組。
- ・心がほっこりするととても素晴らしい番組に仕上がった。震災から約10年になるが、しっかりと、元気に村人が生きている姿を見ることができて良かった。
- ・地方の暮らしを紹介する番組にしては特徴が無いし、新人アナの体験番組にしては「ゆるい」し、少々わかりづらい番組であったと思います。
- ・全体として「滞在記」とするには3日間は短すぎる。職場へ通いながらでも期間を長くした方がよい。目的をはっきりさせて焦点を絞る方がよい。あれこれ詰めすぎて印象が薄くなる。
- ・栄村を俯瞰した風景や自然描写がほしい気がした。県内にある他の同様な過疎地と違う、千曲川下流域の栄村ならではの風土を映像として発掘してほしい。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和2年3月、4月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) 番組種別報告

資料に基づき令和元年10月から令和2年3月までの番組種別について編成局より報告を行った。

配布資料

- ・視聴者対応報告資料（令和2年3月、4月分）
- ・番組種別資料（令和元年10月から令和2年3月まで）
- ・民間放送（第2155号）
- ・BPO報告（No. 212）
- ・モニターレポート

『NBSフォーカス∞信州 雪国ふれあい滞在記

～泣いた笑った NBS新人アナウンサー～ 』

（令和2年2月21日放送分）

- ・放送倫理手帳2020

以上